

幹事会だより

1 若手交流会の開催報告

第5回若手交流会を1月27日(土)、横浜駅東口スカイビルのクルーズ・クルーズYOKOHAMAで開催しました。会食(ランチバイキング)の後は、講演と質疑・応答の勉強会です。今回のテーマは「企業の常識・弁護士の非常識」。スピーカーは弁護士法人横浜パートナー法律事務所 代表弁護士 大山滋郎さんです。講演内容は、アメリカの常識と日本の常識の違い、一般人(企業人)の常識と専門家(法律)の常識の違い、さりとして事実認定・法律解釈は一般人の経験則・常識によって行われ、裁判官も市民の常識を忖度するなど。人によって異なる常識のギャップが、メール・電話等でのクレーム対応などなど、人と人がコミュニケーションを取る上で大小様々な軋轢を生むということがよくわかりました。また、学問(知恵)のある人とは、何でも知っている人(博識の知恵者)ではなく、専門家(法律専門家)がどこにいるかを知っていて、いつでも必要とあらばそこに相談し、すぐに正解が得られる人ということでした。スフィンクスの謎も、専門家(例えば名探偵エルキュール・ポアロ?)の知恵を借りて難なく解いてしまえる人、ということです。若手4名、シニア6名が参加しました。若手交流会も発足から2年、新年会と暑気払いを兼ねた勉強会という年2回の開催が定着してきたように思います。

2 同窓会連合会による「連合会HP情報交換グループ」のスタート

同窓会連合会は、本年2月、地域同窓会ホームページの立上げ・運営を支援するため、ホームページ担当者による質問・助言・ノウハウの情報交換・共有の場としてメールグループを立ち上げました。

さらに連合会としては5月総会へホームページ支援関連の事業計画案を上程すべく調査を進めており、掲載する情報が少ない、若い世代にはSNSがいい、HP維持の人手・予算がないなど、率直な意見が連合会に寄せられているようです。2014年4月に立ち上げた神奈川銀杏会のホームページも、実は連合会事務局から支援を受け、ドメインを無料で提供していただいて連合会サーバー上で運営しています。千葉・埼玉も同様です。

3 T F Tへの登録の推進

会員の皆様、母校の東京大学が運営しているT F T (TODAI for tomorrow : 卒業生オンラインコミュニティー)に登録し、OB・OG同士で連絡をとり、併せて神奈川銀杏会の存在もお知らせし、参加を呼びかけましょう。

同好会活動

(1) 三土会

昼食会(三土会)は、神奈川銀杏会の同好会活動の一環として、会員各位の知識教養を高めるとともに、会員相互の親睦を深める場として開催しております。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

【開催日時】 : 毎月第三土曜日 11:30~14:00

・昼食をとり話題提供者のスピーチを聴いた後、意見交換・自由討論をいたします。

・当日の予定 11:30~12:30 昼食及び会員懇談

12:30~13:30 話題提供

13:30~14:00 質疑応答及び意見交換・自由討論

・テーマに依り、スケジュールを変更する場合がございます。

【開催場所】 : クルーズ・クルーズYOKOHAMA

J R横浜駅東口徒歩3分 スカイビル27F

【今後の予定】 : 話題提供者の敬称省略。

H30 4月21日 「朝鮮半島の歴史と民族の意識」 村田 禪



H30 2月17日 「科学体験塾—15年のあゆみとNPO法人制度について」
安田光一様の講演の一シーン

5月以降の話題提供者を募集しています。(自薦・他薦・推薦可)

【参加申込方法】：

参加御希望の方は開催日の1週間前までに幹事宛てに申し込んでください。

【会費】：3,000円-3,500円/人程度(実費)。話題提供者は無料。

【幹事連絡先】：

- ・羽田壽夫 (連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。)
- ・奥出信一郎 (連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。)

(2) 三火会

三火会開催案内 (毎月第三火曜日7:00~9:00)

【4月例会のお知らせ】

【日時】平成30年4月17日(火)7:00~9:00

【会場】ホテル横浜キャメロット・ジャパン2階 レストラン『地中海料理スタビアーナ』

【時間】7:00~9:00頃まで

【会費】1,620円(朝食代)

【話題提供者】長岡芳雄氏 「GERONTOLOGY」(その2)・・・福祉サービス第三者評価者活動について」

【5月以降の予定】

- ・5月15日(火) 村田禅氏 「朝鮮半島の歴史と民族の意識」
- ・6月19日(火) 瀧川謙司氏 「調整中」

7以降の話題提供者は募集・調整中です。

◆また、例年と同様に、特別企画【横浜港花火大会鑑賞会】を予定しています。

- ・日時：6月2日(土)18時~(予定)
- ・場所：インターコンチネンタルホテル「ぶかり棧橋」(予定)。

ご希望の方は浅沼までお問い合わせください。

【連絡先】担当幹事 浅沼(連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。)

(3) ゴルフ会

会費：年会費無料

会員：神奈川銀杏会会員およびその配偶者の方(現在会員登録数80名)

(入会申し込み：氏名、卒業年次・学部、オフィシャル or プライベートハンデイクップ、〒番号、住所、Tel、Fax番号、Eメールアドレスを幹事まで連絡ください。)

幹事：宇田川 潔（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

(4) 食楽会

4月に入り、めっきり春めいてきた今日この頃ですが、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて今年最初となる食楽会は、さる2/3(土)に過去最高の26名ものご参加を得て、鎌倉の閑静なフランス料理店「古我邸」で鎌倉マダム御用達の絶品フレンチを満喫いたしました。定員オーバーのお申込みをいただきましたので、11時からと12時半からの2部制とさせていただきますが、ご参加の皆様には楽しんでいただけたものと存じます。

次回は4/7(土)に、伝統ある関内のギリシャ料理店「スパルタ」での開催を予定しておりますので、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

またこれを機会に新規に入会を希望される方は、下記幹事までメールにて「卒業年次・学部・ご住所・電話番号（携帯電話番号とも）」をご記入の上、お申込みをお願いいたします。



○大久保敏治（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

○豊吉 誠治（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

○福山 隆幸（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

(5) 気功の会

気功の会は、神奈川銀杏会の同好会活動の一環として、会員各位の健康を増進するとともに、会員相互の親睦を深める場として開催しております。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

【開催日時】：毎月第一・第三土曜日 9:30～11:00

・スケジュールを変更する場合がございます。

・体を動かしやすい平服でおいでください。

【開催場所】：神奈川区金港町1-11 ナビュール横浜タワーレジデンスの3階音楽スタジオ JR横浜駅東口徒歩3分

【主催】：東京大学同窓会・神奈川銀杏会の「気功の会」

【幹事連絡先】：幹事 奥出 信一郎（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

副幹事 福山 隆幸（連絡先は「入会等お問合せ」でお問い合わせください。）

講師 大畑 敏久

短信コーナー

仏像展にご来場いただき、ありがとうございます！

去る3月10日～12日、新橋の東京美術倶楽部にて開催された第9回・仏像彫刻作品展には神奈川銀杏会ははじめ多数の東大OBの皆さんにご来場いただき感謝しています。本当にありがとうございました。

毎年秋には、京都文化博物館において開催される宗教芸術院主催による全国規模の展覧会に新作を発表していますが、3年に1回の東京展には過去3年間の作品をお披露目することになっており、今回は大日如来坐像（総高60cm）、十一面観音立像（総高55cm）、普賢菩薩立像（総高70cm）を出品しました。私は絵画が好きですので、日本画用の金泥と岩絵の具で彩色しています。

鈴木庸夫



若杉忠男

2018年3月30日

*** 一神教の神も永遠ではない ***

*** 1 生命とは何か

生命の科学的に明確な定義はないようだ。あるとき、無生物からなんらかの作用によって生き物が動き出し、周囲のエネルギーを吸収して増殖して自己複製していった。生命の初めはそんなものらしい。そうすると生きるとは変化することで、死ぬとは変化しなくなることだろうか。

生きているか生きていないかわからないウイルスというものがあるそうだ。物質と生命体の中間的なものである。たとえば、タバコウイルスは周囲の環境が自分に合わないとき結晶状になり、適度な気温と湿度があれば増殖してタバコの葉にタバコモザイク病という病気を起こす。一神教では神が生命を作ったと言っているが、生命の始まりは神秘的なのである。

生命体が増えすぎると地上は生き物だらけとなり、資源の奪い合い、共食いとなるだろう。それは生命の進化の過程を見れば想像がつく。草が生えたら羊が増え、羊が増えたら狼が食べ、狼が増えすぎると共食いの争いがおき、強いものが勝つ。人間の場合、争いの口実は、正義のためとか、平和のためとか、核兵器拡散を防ぐためとか、理由はいくつでも作られる。そしてそれらの理由はジグソーパズルのように互いに影響しあって増えてゆく。

こういう人間の集まりを文化と呼ぶ。文化は周辺からエネルギーを吸収し、仲間を増やし、成長し、自己複製して増殖してゆく。文化も生命体の条件を満たしているのだ。

*** 2 文化と神の誕生

人間が集まれば文化が生まれる。文化も生き物だから生きる目標が欲しい。そして理想像として暖かい太陽や賢い動物などを神として宗教を作ることもあるだろう。

一神教は、人間をモデルとして神を作り出し、人間が従うべき道徳や儀式なども作って、一神教という宗教を生み出したのだ。一神教というからには神は一つのはずなのに、イスラム教やキリスト教などに分裂して争っている。自己複製をしたのである。

一神教では、神がまず存在して宇宙を作り、人を作ったと考えているから、次の順になる。

神→宇宙→人→宗教→。

神は考えられる最高のものであり、だから当然一つしかないとして、宗教とその教えを作った。人は神の言葉に口出しなどできない。それで宗教は変化できなくなった。

一方、人が神の生まれる前に存在したとすれば、多神教が生まれ、社会や環境の変化につれて宗教も変わるので、次のような順になる。

人間→文化→神→宗教→・・・。

そしてその差は時代を経るに従って大きくなるだろう。

たとえば、聖書の書かれた時代では、人間には男と女という区別しかなかったらしい(?)が、最近はホモやレズなどという多様化が見られる。人間が変われば社会も変化し宗教も変化する。実際、一神教はキリスト教やイスラム教などに分裂している。

*3 “生きる”とは変化すること

ここで生きるとはどういうことか考えてみよう。生きるとは変化することだとすれば、反対の“死ぬ”とは変化しなくなることであろう。生命体は変化するという本能を持つものだとすれば、死を恐れるのは当然である。しかしただ変化するだけでは生きているとは言えない。ロボットを生き物とは言えないからである。命の種子のようなものがあるのかもしれない。一神教ではそれは神が与えたものと言いたいだろうが、一神教の神は“言葉の世界”すなわち“心の中”にあり、“愛”とか“希望”“理想”と同じように非物質的で、周囲の状況によって変化する。だから愛の強さなどは測定できない。天国も変化するものなので、人間が皆で力を合わせて実現させるべき理想郷なのではないだろうか。

*4 戦争も悪魔も文化である

文化というと何かいいことのように思うかもしれないが、怒りや戦争も文化の一つである。国際的なもめごとが多い現在は、文化の盛んな時代である。実際、宗教は戦争や飢饉や天災など現世の不幸の鎮静剤の役割を果たしており、寺院や教会は愚痴やお願い事のはけ口になっているように思える。

一神教では、神が天国に存在して死ぬ人を暖かく受け入れて下さると言われているが、一方、教えに従わない者は地獄に落とすなどとも言う。人間は神の“しもべ”なのである。だから時には狂信的なテロリストを生み出すことにもなる。

現代の法律は複雑で、裁判員制度で裁判員が相談して多数決で決めたりしている。現代は一神教の神に判決をまかせられるような単純な社会ではない。

一神教のもう一つの問題点は、自然科学と合わないことである。科学では“エントロピー増大の法則”といって、この世のすべてのものは時間がたてば熱を失って冷え切って滅ぶと信じられている。ところが一神教の神は年をとらない。神は時間の流れの外に存在する。だから我々人間は裁判員制度の世界に存在するのに、神はモーゼの十戒の時代に存在するというズレが生じる。

科学も宗教も文化の一つである。自然科学とは簡単に言えば過去の情報によって将来の予想をすることだから、過去の情報が少ない場合には将来の予想の精度は落ちる。地震の予知などのように何万年もの長期間の情報が必要な場合や、放射能の人体に与える影響のように、まだ十分な情報の集積がない場合には信頼できない。

また変化(=進化)の速度は対象によって異なるので、科学の発達の一区切り(百年くらいか?)、生物の進化(1万年?)、景気の変動(ひと月?)など、それぞれ対象によって違う。人類自体も、レズやホモなどという人が増えているようだから変化の途上にあるらしい。そして個々の人間自体も若い時と高齢になってからとでは変化の速度が違う。私自身も年とともに脳の働きが鈍くなってきている。この場合は変化でなく“老化”と呼ぶが、宗教関係の言葉には特別な言い方することが多い。神という言葉も“絶対者”などと呼ばれることがあるが、明確な定義はなく、恐れ多くて質問もさせず、神の姿を絵にも描かせない宗教もある。現在の社会の混乱の一因は、文化の多様化と、その変化速度の複雑さにある。

そして宗教の中には、豚や蛇を食べてはいけないとか、お祓いをすましたもの以外は食べないものもある。キリスト教はそういう戒律の少ない宗教だから、広く世界的に広まったのだ。しかし現代の社会と一神教が生まれたころの社会とは大きく変化している。たとえば、今後30年以内に震度7以上の首都圏直下型地震が起きる確率が70%と言われても、家の補強工事をする人はいても、地震が来ないようにと神に祈る人は多分ないだろう。宗教も科学も、あまり信じられていないのだ。

一神教は天動説や進化論などで自然科学に敗北を重ねてきた。そして、人の命は尊いものだという教えにもかかわらず、戦争のない世界を作ることに成功していない。

今後一神教は多くの宗教に分裂し、そして離合集散するのではないだろうか。武器の性能は飛躍的に発達したのに、神

も人も将来を予想予言する能力はないし、時間は一方向にしか流れないようだ。人類の将来はどうなるのか。未来は全くわからないから黙って進むより仕方がない。しかし一神教の信者にとっては、自分のことを考えてくださる神が存在しないというのは心細いだろう。私は“この世は空で無だ”という仏教の思想に納得し、何千年か何十万年か先には、神も人もすべて消えてなくなるときがあると思っている。生命体にとって死もまた必要なのであろう。でもせつかく与えられた生命である。長く生きてできるだけ楽しもうではないか。

次回の神奈川銀杏会ニュース第 53 号は 6 月編集、7 月 1 日発行の予定です。